LIBRARY INFORMATION

地図コーナー（廣岡記念）開設展示目録及び解説

特集号

地図コーナーの開設に寄せて

学長　山田善郎

このたび、附属図書館に於て地図コーナーのテープカットがとり行われる運びとなった。ここに至るまでの関係者各位、特に図書館長を初めとする館員の並々ならぬ熱意と努力には敬服のほかはない。この機会をかりて、厚く感謝する次第である。

既に何年か前から、人文地理学の君塚先生を中心にして、外大としての性格上、あるいは押し寄せる国際化の浪に促進されて、地図資料を整備充実しようとする胎動があったところへ、図書館長の熱意あふれる慫慂に動かされたのか、もともと古地図に大きな関心をよせておられた、本学ロシア語部、第四回の卒業生、廣岡寅治氏のご好意による奨学寄附金を得て、大きくはずみがついたかっこうで、思惑より早く地図コーナー開設の日を迎えることが出来たのである。将来地図コーナーから地図館へといった夢の実現に向けて踏み出すきっかけともなった同氏のご厚情に改めて深甚の感謝と敬意を表するものである。

文字の歴史よりも古いと言われている地図が我々に語りかけるものは無限である。一枚の古地図を眺めていると、そこに秘められたそれぞれの時代の地理的世界像ばかりでなく、営々として人類の歴史を築きあげてきた人間の意志とか情熱とか、さらには時代時代の世界観と云ったものが読み取れる思いがする。

今、私は日頃の多忙さを紛らすために、世界地図を眺めては、図上旅行を楽しんでいる。そこには限りない夢があり、それは極彩色で、文化の彩りや、そこに住む人々の生活の匂すら、想像の世界の中で際限なく拡っていく。このような観念の遊びが、一日も早く現実のものになることを願っているものであるが、いずれにしても地図というものは単に地表の正確な形態や距離感を認識するに止まらず、世界共通の言語として、ナショナル・アトラスにみられる主題図やメッシュ・マップなどさまざまな種類の地図帖を通して、世界の国々に対する知識を深め、グローバルな相互理解を図る上で、大きな助けとなることであろう。

このように考えてくると、大阪外大の図書館に、地図コーナーが開設されて、今後、ますます拡大、充実されていかれるであろうことに期待がもたれる時、その意義はまことにはかり知れないものがあると、全学をあげてご同慶にたえないところである。

ご挨拶

附属図書館長　山口慶四郎

本学は、生活空間をはるかに越えた場所で活躍する人材を養成する学問の府である。当然に本学の学生には地理的センスが要求される。このような視点にたって、われわれ附属図書館は、地図、地図帳、地球儀などの模型、地図関係図書等々の地図資料を系統的に収集して保管取り扱いに難渋し、多くの工夫を要するそれらを有効に利用されるよう積極的に閲覧に供しようと、地図コーナーを館内に設けることを構想した。昨年の晩夏のころである。幸いにして学内関係者の賛同をえ、ささやかなそれの開設作業の緒についた。

ところが本年に入り、本学卒業の廣岡寅治氏より多額の奨学寄附金をいただき、前記構想は脹らむことになり、その実現が加速化されたのである。美術品の愛好者収集者として知られる廣岡寅治氏は、「地図は科学と芸術の結晶体」と、かねてより地図、とりわけ古地図に大きな関心を寄せられていたのである。この機会をかりて、絶大なご授助を賜わった廣岡寅治氏に深甚なる謝意と敬意を表するものである。

今日のグローバルな時代を思えば、世界の各地域のもつ自然、社会の諸条件を知るもっとも基本的な出発点の一つは読図といってよかろう。地図は世界中の誰もが理解できる共通言語として優れた機能をもっているといわれる。同感である。国際化時代に地球的規模で活躍する本学関係者には、地図なしの行動は考えられない。日常不断の読図訓練が強く期待される。

以上にのべたような意味で今回本館閲覧室を拡張して地図コーナーを設置したことはきわめて有意義なものと考える。しかし、海外の地図情報の現物を収集することは、言うは易くして、実際にはその実現に大変な困難を伴なう仕事である。本学はそのために比較的有利な主体的条件を備えているとはいえ、「必要な時に必要な地図」を提供できるようになるためには多くの歳月を要するであろう。エンドレスの事業である。本学関係者のみならず、本コーナーに足をお運びの各位に、本コーナー充実発展のためのご協力、ご支援を切にお願いするものである。われわれ附属図書館も今後とも地図資料収集の努力をいっそう強め、大学附属図書館のなかでも有数のものとなるよう地図情報の研鑽に励むことをお誓いするものである。

終りに、本コーナーを当初考えていたように本日ここにテープ・カットできたこと、ご同慶と存ずるとともに、ここにいたるまでご厚意を示された関係各位に感謝の言葉を申しあげる次第である。

地図コーナー開設にあたって

人文地理学教授　君塚　進

地図コーナー発足の運びとなり欣快に存じます。顧みれば本学に縁を得た昭和30年代前半、上八の書庫をみせて貰い、その地図類整備状況に正直なところ呆然としたことでした。それでも各教官個人はそれぞれの必要度に応じ、個人あるいは研究室で地図を保有のことと思い、しからば教職員・学生を網羅しての全学的な地図類利用の自由気楽な場を設けること、さらには上八というロケーションからして、滔滔たる国際化の流れに活動する一般市民の便にまで拡大すべきと考えた次第でした。とはいえことは遅遅として進まず、時移り人かわり、キャンパス移転のこともあり何かしら「大きな流れ」といったものが次第にまとまって来たのでしょう、今般の実現を見るを得ました。国際化の先駆としての努力の外に、基本的な事どもの着実な充実が意識的・無意識的になされるべき気運が出てきた証かもしれません。狂瀾恐濤の世の推移の中を活動し立派な業績をあげられた大先輩廣岡寅治氏が、地図コーナーに多大な御賛助を下さったのも、御自分の実体験の中から発した識見によるものと敬意を表する次第です。

しかしながら地図コーナーはまだ端緒についたばかりです。所蔵設置の図幅・文献も、設備もこれから充実に努めねばなりません。不断に、執念深く、貪欲に。その原動力となるのは「地図の利用」です。それはトレーニングにより向上し、末広がりに興味が拡大致します。読書と同じく「眼」という、脳に最短距離にある五感の一つで読図するのですから。私は門外漢ですが、外国語学習も辞典類をボロボロになるくらいにひくことで、興味が増してゆき、外国研究の視野がひらけてゆく筈と思います。スポーツの初心者も練習を重ねてゆく過程で、面白さと上達が相互に加速し合うじゃないですか。まだ貧弱な数・質・量ですが、また地図帳など重くて嵩張りますが、頻繁に利用して戴きたい。と共に欲しい地図の要求も遠慮なく。そして将来は地球を股にかけて横行濶歩する（？）筈ですし、外国で入手の地図など（不要になれば）御寄贈を。

末尾になりましたが、発足に至るまでの面倒な仕事を、手薄の員数の中で努力された、図書館の関係各位をはじめ事務局の方方にあつく感謝致します。特に直接地図コーナーに関係の向きは、これからずっとコーナーの発展と共に御苦労も増大する訳ですから。

地図コーナー（廣岡記念）について

附属図書館

周知のように、本学は、外国の言語とそれを基底とする文化一般について、理論と実際にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な高い教養を与え、言語を通じて外国に関する理解を深めることを目的として建学された（学則第1条）。この場合、今日のグローバルな時代を思えば、世界の各地域のもつ自然・人文社会の諸条件を知るもっとも基本的な出発点の一つは読図といってよかろう。

ところで、地図資料には、地図、地図帳（アトラス）、地球儀などの模型、地名関係参考図書等々が含まれるが、これらを総合的に収集した大学図書館もしくは公共図書館の数はきわめて限られている。さらには、地図の体裁が種々雑多であるとか、このため保管取り扱い工夫を要するとかいったように、地図には一般図書に比べると幾つかの特徴があるため、地図情報の大部分が必ずしも有効に利用されないままになっているのが現状である。

本学の場合、図書館において創学以来、教育用掛地図を中心に若干の地図を保有しているが、それらは少数で、書庫に散在している。ましてや現存の17語学科において教授する21の外国語が流通する国の、現地語による地図というものは、先進国のそれを除き、研究室によっては教員個人が教育・研究の必要から個別に購入取得しているものが若干あるほか、残念ながらほとんどといってよいほど整備されていない状況である。個別に所有されている地図は、その所在が一般的に知られず、もちろん、全学的に利用に供されるといったことは期待できないでいる。

以上に述べたような状況をふまえ、地図資料を一定の場所に集中し、教職員、学生ができるだけ容易にそれらを利用できるようにするというが「地図コーナー」設置の目的である。このコーナーには読図や作図の設備があることは望ましい。

（一）地図

自然・人文にわたり必要とみなされる事象をとりあげた一般図ならびに土地利用、土壌、気象、人口、言語、文学、産業など特定の事象につき、さまざまなテーマにわたる主題図を整備する。この場合、前述の21の外国語による、それぞれが公用語として流通する各国の地図を網羅することはもちろんである。

（二）地図帳

世界のすべての国のナショナル・アトラスについては、その国の公用語と英語

で示したものをそれぞれ整備するにとどまらず、その国ともっとも関係深い国の言語(独、仏、西、露、中の5カ国語のうち一つ)によるアトラスも利用に供する。また、英独仏西露中の6カ国語によるワールド・アトラスを中心に、可能な限り、その他15の外国語によるワールド・アトラスも整備する。

さらに主題地図帳として、地図の項であげた各種のほか、歴史、方言、道路、遺跡などの地図帳も収集しなければならないことは当然である。また、世界の大都市、歴史都市の都市アトラスも収集する。

(三) 古地図

地図は一般的には現状を表すもの、つまり最新のものが求められるのが当然だが、資料としては古地図をはじめ過去の地図もそれなりに貴重である。これの収集にも力を注ぎ、コーナーで時に展覧する。

(四) 模型

大小の地球儀を展示する。大型地球儀のほか、21の外国語表示による小型地球儀を教職員、学生ら来館者が自由に触れることができるようにする。ほかに天体模型、地形模型も展示される。

(五) 地名関係参考図書

地名、地名発音、地名語源等の事典、都市郡町村名リスト、それに地誌など関連図書が必要とされる。

以上のように、地図資料を一室に保管、それを閲覧に供するのが「地図コーナー」設置構想の概要である。所蔵資料の大半はここで開架式で利用される。コーナーには『世界地図時計』もあり、研究上のみならず、本学の学生、外国人留学生にとっても学習上きわめて有益かつ楽しいコーナーとなることが期待される。

近い将来において本館所蔵地図資料の目録を完成させ、それを所在情報として他の大学に提供すれば、大学相互間の利用も実現し、資料利用の活性化に拍車をかけることになろう。

このコーナーを設置するに当っては相当の困難が予想されることはもちろんである。また、この維持はエンドレスの作業である。幸い、本学の教員、学生の海外渡航者数は他大学に比しきわめて多いし、その渡航先も世界各地におよんでいる。また、世界各国からの研究者、留学生の出入りも激しい。このような条件のもとでこの地図コーナーの基礎が確立されれば、上記のような地図資料のみならずポケット市街図、交通規制図、鳥瞰市街図、イラストマップ帳、サイクリングマップ、文学碑所在案内地図などの提供が期待されると共に、各種の特色あるテーマの地図帳も独自に編纂することができ、本学図書館は特異な地図コレクションを擁するものとなろう。

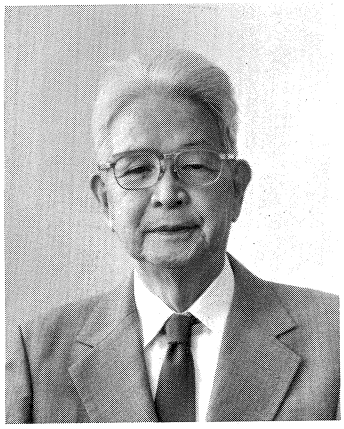
この種の計画はことを急いではならないことはもちろんである。しかし慎重さにも限度があるので、本コーナーの開設を、昭和62年11月19日とした。本学附属図書館はその拡張計画をすでに検討中であるので、その実現に際しては、それまでに地図資料収集の努力をいっそう強め、地図室(あるいは地図館)にふさわしいフロアーを設け、わが国有数のものとなることを目指すものである。

廣岡寅治氏について

廣岡寅治氏(現在、神戸市中央区熊内町にご在住)は兵庫県加古川市の出身(明治38年10月生まれ)、兵庫県立小野中学校を経て旧制大阪外国語学校露語部を昭和3年卒業、実業家藤田好三郎氏(故人)の秘書となった。その後、武庫川土地株式会社専務となったが、鑛山経営に着手、鳥取県所在の亜鉛採掘の後谷(うしろだに)鑛山、山口県所在のコバルト、銅、タングステンを産する金ケ峠鑛山の社長など、全国各地の有数な鑛山の経営者として知られた。

戦後はこのほか、京阪神地域を販売対象とする新日本新聞社の社長、酒造会社の富久娘社長なども歴任、教育関係では、経営難に陥った三田学園の代表理事に迎えられ、その再建に貢献された。

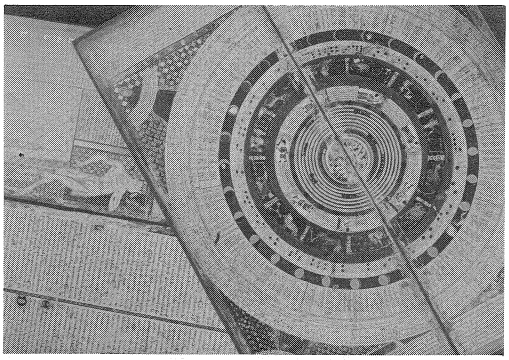
いまも同和火災海上保険会社と同和不動産会社の名誉顧問を勤められる廣岡寅治氏は、美術品の非常な愛好者、所蔵者としても著名な、数多い本学卒業者のなかで異色の存在である。



地図コーナー(廣岡記念)開設展示目録と解説

1.「マッパムンディ」(中世の世界図)
Mapamundi; The Catalan World Atlas of the Year 1371

1375年、フランス王シャルル5世のために、14世紀の地中海の海図作成の先達、マジョルカ島人アブラハム＝クレスケスが羊皮紙に描いた地図の豪華な集成の復刻版。いわゆるカタロニア地図帳(Catalan Map)。(聖書に記されている物語や事物、あるいは古代や中世の伝承に基づく事項を、世界図の形をかりて表わした絵図)〈写真1〉

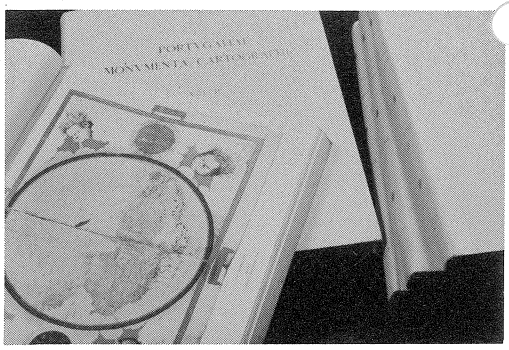


〈写真1〉

2. コルテザォン、ダ・モタ「ポルトガル海図集成」全6巻
Cortesao, Armãndo and Avelino Texeira Da Mota Portugaliae Monumenta Cartographica

大航海時代の先鞭をつけたポルトガルの海図は、以後の他の諸国で作成された世界図にとりいれられ、「地図学に強い影響を及ぼした(C．ブリッカー)」が、それらは羊皮紙に手描きされたもので、残存するのは僅かである。

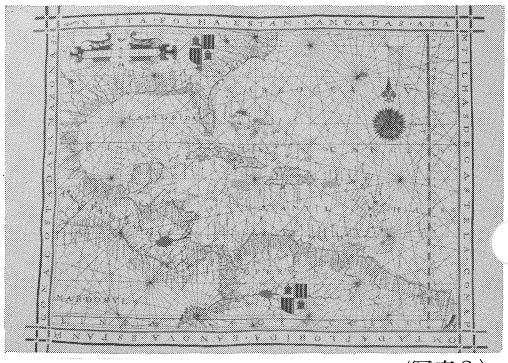
本書はこれら稀少な海図の復刻版、1960年 リスボン刊。〈写真2〉



〈写真2〉

3.「フェルナン・ヴァズ・ドゥラドの地図帳」1948年
Atlas de Fernao Vas Dourado—Reproducao fidelissima do exemplar da Torre do Tombo, datado de Goa, 1571.

1571年出版のポルトガル海図集、フェルナン・ヴァズ・ドゥラド(Fernão Vaz Dourado, 1520～1580)はポルトガルの地図製作者。(ヨーロッパ人渡来初期の日本図として、研究分類されているが、ドウラド型の日本もその典型の一つとして有名である。)〈写真3〉



〈写真3〉

4. ミュンスター「世界図」1550年

Münster Sebastian (1489-1552)

新しい地理的発見によって、伝統的な「プトレマイオス地図」は「新図」として当時の新しい知見を加えて次々と改訂された。16世紀には、一般にコスモグラフィアCosmographiaと呼ばれる地理書が多数刊行された。地誌的記述を主とする地理書としてミュンスターは最も著名である。〈表紙写真〉

5. メルカトール「アジア図」1587年　ベニス刊

Mercator, Gerhard (1512～94)

16世紀の最も傑出した地理学者。「プトレマイオス以来、地図学史においてルベルモンド(東フランドル地方)の巨匠に比肩するものはない(ノルデンシェルド)」

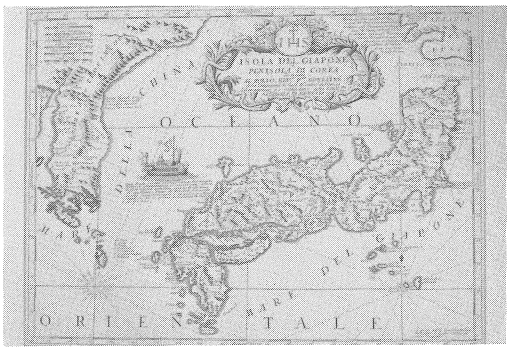
〈写真4〉

6．オルテリウス「アジア図」1595年

Ortelius, Abraham (1527～98)

メルカトールと同時代で、親友でもあったオルテリウスは当時の最もすぐれた地図製作者、地図出版者であった。1570年、約53枚の銅板手描彩色地図よりなる世界地図帳〈Theatrum Orbis Terrarum (世界の舞台)〉を編集出版した。

本図はその世界地図帳中の〈東アジア図〉であるが、日本は本州と九州とを区別せず、卵形の一島にえがいている。本州の北方には四国の土佐(Tozza)の島を置き、甚しく不正確である。



〈写真５〉

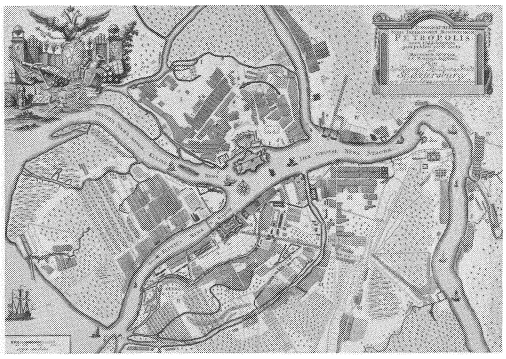
7．オルテリウス「東インド諸島図」1600年

8．ブラウ「世界地図帳」全12巻 1663年 アムステルダム刊

Le Grand Atlas ou Cosmographie Blaviane.

メルカトール、オルテリウスの後を継いで、17世紀オランダにおける最大の地図出版者はブラウ一族である。1663年には、銅版印刷技術を駆使した地図帳を出版した。

全部で12巻に及ぶ厖大なフォリオ版の地図帳である。



〈写真６〉

9．ブラウ「中国地図」1655年　アムステルダム刊

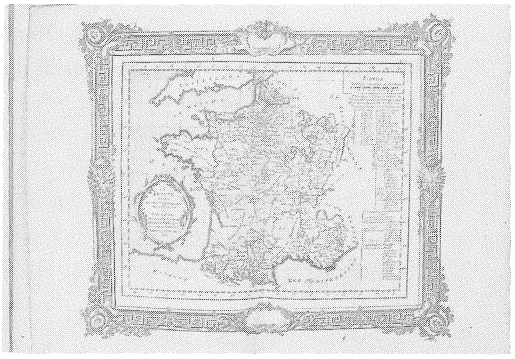
Blaeu, Janszoon : Atlas; Imperii Sinarum nova Descriptio (オリジナル)

10．コロネリ「日本地図」1692年　ベニス刊

Atlas : Japan—Isola de Giapone e penisola di Corea.

P. Vicenzo Maria Coronelli (1650～1718)

ベネチアで生まれ、イタリアの代表的(当時)地理学者、地図・地球儀製作者。〈写真５〉



〈写真７〉

11．ペテルスブルグ市都市計画図　1744年

St. Petersburg. Topo raphia Sedis Imperatoriae Moscovitarum Petropolis

18世紀には、アウグスブルグを中心に都市図の刊行が盛んであった。ドイツ人による都市景観図、平面図は有名である。〈写真６〉

12．パリ効外の22枚の小型地図帳　1766年　パリ刊

Atlas Portatif contenant les XXⅡ Cortes des Environs de Paris.

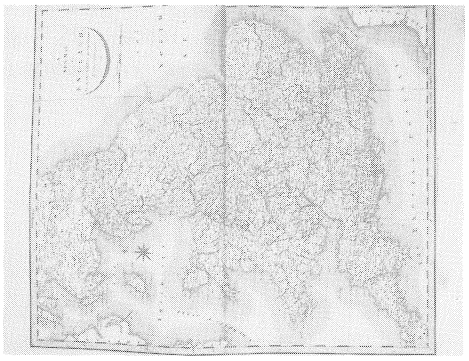
フランス革命前夜のパリ地図帳。〈写真７〉

13．ケアリー「新英国地図帳」1811年　ロンドン刊

Jokn Cary's New English Atlas

John, Cary (1754～1835)

この時期の地図製作史上に大きな影響を与えたケアリーの地図帳。〈写真８〉



〈写真８〉

14. ラグリュー「古今フランス歴史・地理論」1722年
Lafuerue, Dugour de Description historique et geographique de la France ancienne et moderne.

15.「フランス植民地図録」1929年　パリ刊
Atlas Colonial Fnancais Colonies, Protectorats et pays sous mandat.

16. 東西地球萬國全圖―嘉永校定―圖及説・栗原信晃再校　丁子屋平兵衛発行「嘉永年刊」

17. カッシニ「フランス地形図」
Carte de Cassini de Fnance(each one copy)1: 86,400
カッシニ家三代に亘って地図を完成、三角測量と天文観測に拠る世界最初の科学的地図(1683～1818)

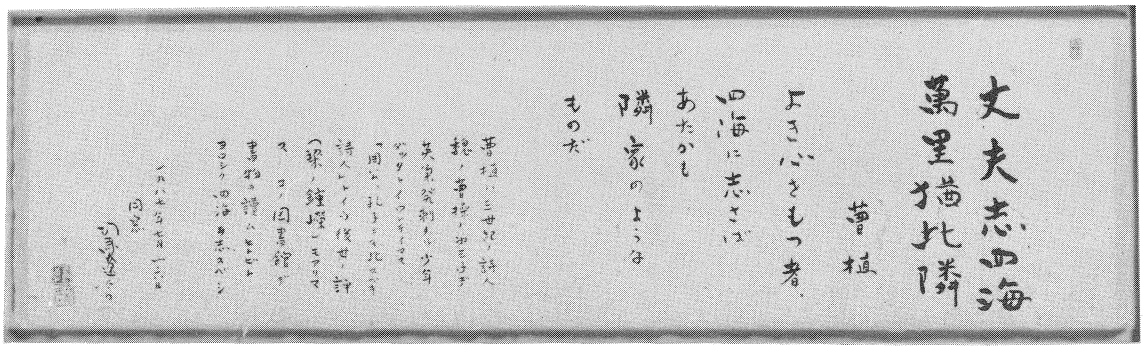
※三角測量とは三角法の正弦比例の法則を応用して、三角形の一辺を基線として距離測量し、その他の三角形の各辺の長さは角測量によって求める測量法であり、角測量は距離測量よりも容易で、かつ精密な観測値が得やすいのが特色である。

この展示目録及び解説は、本館が収集した地図資料の中から、地図発展史上、主要な里程標となる資料を中心に選んで掲載したものである。

四海への知的興奮

司馬遼太郎

身辺で、大阪外国語大学に入ったひとに出会ったりすると、
「いい大学に入ったな」
と、心から祝うのである。そこで学ぶ学問は、生涯そのひとを愉しませつづけるはずだということを、私は知っている。
三世紀の魏の詩人曹植は若くして才をうたわれ、染の一知識人の評によれば〝孔子以来の大才〟だったというが、その詩句のなかに「丈夫四海ニ志サバ、万里モ猶比隣（註・五軒のとなり）ノ如シ」ということばがある。
この大学で学べば、たとえ雄図をもたなくても、頭のなかに四海ができあがって、古今のさまざまな人間や文化と接することができる。
人間にとって、人間ほど刺激的なものはない。人間は、民族によってさまざまな文化を衣類とし、あるいは思考法とし、また生きるよすがとし、さらにはそれをamusementsとしている。それらのむれと、現実に、もしくは観念の上でつきあう方法と思想と実際を教える大学は、日本でここしかない。
その知的昂奮が生涯つづくことを、私は六十余年をかけてみずから証したつもりでいる。
以上、愉快をこめて。



司馬遼太郎氏寄贈の書（地図コーナー入口）

LIBRARY INFORMATION

—第3号(特集号)— 1987年11月19日

編集発行 大阪外国語大学附属図書館

印 刷 ユニワールド印刷センター

大阪外国語大学附属図書館